八百屋人
佐梅
寛政九年
馬琴作
落話
へ13
1984
9

9
13
1984
9

序

[illegible]

[illegible]言曰坂諧劇譚甘[illegible]館
[illegible]首尾言也夫聽[illegible]而可喜
可嘆可笑可泣可驚焉可怖矣特
莊諧者與聽者之工拙耳[illegible]

序一

無為有恐假為真乃所謂
癡人面前說夢也嗚呼誰何
[illegible]也予以素墨滋戲者
有[illegible]於此矣書戲追記舊話
登錄新聞聊撰艾子齋

口口口諸公扁可以資延席
貴[illegible]公可以破狐[illegible]岑寂
[illegible]成排架偶坫貴素竊
神之而書災櫻曰書數行
於簡端

序二

寛政己未人日呵禍書于

飯台之寓居

曲亭野史馬琴

戲聞鹽梅餘史

○腐儒　矮談
○鮫人　長話
○夜行翁　矮談
○両婦換魂　長話
○俳諧　矮談
○閻王中魔法　長話
○美人怪力　矮談

凡例

○凡談者小巧拙あれども。又聽ぬ工拙あり。詭と聽と孰か難しとせん。聽ハ易くして。詭と最難し。雲べ初鰹と者こゝ喰ふ人ハ。松奥ふかゝ。料る人の拙きを。廼茂子のきゝ。夫鳥銃の的と外して。隣の寺ゝ責の来るハ。噴銃の罪ふかゝ。放りの拙きを。見狭砲のこゝ。ひとりよべし。

○著を不の談叢ハ。世間ふ拙ぶ和の俗ハ。大美して。稗史小説の旨とのべ。絶ふ一句の狂語。ゝ。讃ものとして解頤しむ。巻中乃名ハ。七品。長あり短あり長といへども長寄ゝ剛級も未ども。短といへども冬の日ふ縫揚ゝ世ども。呂勧善懲悪の好味と以て試書の大意ゝ。是と以て洽梅餘史と

や
ちら
めく
星の数
仙水散人
羅文

新板鹽梅錄史

江戸飯台　曲亭馬琴撰

腐儒

学の糟粕と咎て。愚癡偏古の腐儒あり。愚ふ漢土ふ生れざることと歎き。平生人と語るふも。漢でハ個様。唐土でハかやうと。万事漢土のことのみ称歎し。我邦人もその点ども。受業するあも

さらなり。まして時移りふうとまバ。右の
ごとくの寒士ハて。年暖あれども身邊
空〳〵。世豊ならんにハ腹餓さう。つゝ子
雪花菜といて糧とせんに。人綽歸て
入生と喚做す。ある時門人先生の
飯を乞ふ。椀中飯をすくして。ふ雪花
菜をうれべ。門人大ふ呆て。孔子も疏食
と啗ひ水と飲脆と曲て枕とす。樂亦其中

ふ有りとハ宮ひ〳〵。いうどの聖人雪花
菜と啗〳〵とと宮ど。先生の高論うけ
まハ〳〵こつくれべ。先生踏〳〵歩うまづ。否
雪花菜と好むことさの〳〵別ふ細
なり。作ハ腐の糟と呼で雪花菜といひ。
又散〳〵。散ハ唐よ言通ひくゆ〳〵れべ。
腐ふ漢士の緑と啗んて。散とこべやさうり
と。俗服〳〵的つくれべ。門人大ふ感〳〵ハ誠ふ

先生の爾とさうひのみ老實八まつ孫別
ありてこれの事ハ今より五蜀と答ないど。
唐といひ。りうこうといひ。その書よく通ひ中
さんとうひけまべ。先生けかまと大ハ歓び。ゆ
来と玉蜀のこうりれべ。忽面部ハ
赤くして。起居もんのまくみずある日
先生ゆゑ二三人ある門人とあつめ吾
不幸ハして疫癖と患ひ今ハ各位教育

事もこうれべ。今より所の師ハさう
て枕書とをげこの人ぱ。ぱこごろ蜀黍ハ
市場ひこころざのうれつさふこれと紀会
ゆこるふりとそ一個の古萄然とり
山ハ号ハ蜀黍つのぐ唐土と言ふ。
りりく松ハ法せ一萄然ありこれと分て
各位這言あるべとこいひ生べ門人と
感涙とぐやりて。先生ハ漢土と言ひ

あるこゝろ。是まで秘蔵なさるゝ一葛竜
るれべ中あらざめて霊の器孔子の梁
ゝ。さて一孟母の線車ゝ。作りもせよ漢士ゝ。
たぐひ崇ある重宝きんと。諸生ぐ立ちて。
[illegible]の蓋と唱へ[illegible]人まべ。中ハさゝぞり。
[illegible]らでありて。

○鮫人

むゝ倭屋敷太ゝとらふものゝ。常小英婦

と称らんとゝわづかしも。いとゞその風とかず。
ある日潮回の粮とりるふ。かゝりるみる。みの
ゝ。個の漢子眠居ゝ。その形状るふ恐
ゝ。巷の須清月墨のごとく黒くて鬼
ふ仏ゝ。鳴起して行者ゝ。そのゝの射
て我ハ海中の鮫人ゝ。八大龍王ふつくて
嘗のふ実ゝ。ふゝ羅わゝ。ゝ
所放ゝ。今漂泊ゝ。ふ吟ゝ

ゐられ扇の恩恵にとりて救ひ給へ。
と全て祈りれば。後ろ向きて待ふ仮ゐや
こひ人遂小銀人を伴ひつゝ来り。
常ひ者を示ニ汐の泉水ありしべ。その
[illegible]人へ養ゐさり。常説その秋七月
のと入り」が最ふ三井寺の女人法と見拾
小行ふ一ふ宿あ。その中ゐ一個の[illegible]
女。ふ八二八ぞろとふ人。山ゐ西施が破瓜の

ふ。白楽天が名拾たるゐ。けふて。[illegible]
宮ふと称ひ。言伝ハ昔号の柱の木仏ゐ同信のれば。
後ふ弟一番より。即チ春と生ず。遂
ふて行てふ丸バ。八早漱ゐふ[illegible]
ゐる唐[illegible]ひとび。母子二口ふ[illegible]上。れば密ゐ
合掌の老媼小便てその[illegible]ひとゐ母ふ[illegible]ふ渠元
より對と撰ふて[illegible]ず嫁ど。母児の名と称名
とふ八。ゐのぞむふろ萬顆の明玉と絶聘

にまよふ人あらバ。聟にせんとの雑説。嗚呼手段に
仮令家を破りて千金をつひやし。万般の明
玉。いかなる容易求めんやうあらざれバ。鈞陶にて
つひに悶えの病となり。枕もさらにあがらねバ。さる
[illegible]医師をまねきて容子を何ふに医師脈を
診して大きに驚き。雑症ハ医べし。相思病ハ治
がたし。むかし鄭卿王伯輿情のために死を君
が病ひ唯空しく驚死と侍んのこと。袖をとり

つてさゝゆる。帯説養ふがためなりけらし
鮫人ハ。主人の疾を聞しときて。昼夜枕にそふて
看病をすれバ。養ふもその志を感じ。遂に不
思ぎの縁によつて海と申すことを院に宣載
にいたりしかるに只が病日にまして。且をも知れず
はるかなる年月の枝をわかのこゝろひとつもあらバ。是
亡後ハ維前にいく海と言ふをいのちもあまし。寔人かく
おしぬ世にありけるをかなしくおもひてなさんと。鮫

人の言と成りも。哭泣法外。魂魄不
ごの血の涙。藉〻こと爲せりがたちまち光輝
て。粉〻こふ燈こあり。爰ふこれとなるより
も。淺〻ものけて岸波と記。ワガ命既ふ盡さ
アッ。ヒ人ちこんでその沢ときこれ。爰ふ
アッ事も說話万枝のたまゐれ。ちふ
家ふちことあっず。まひにこそ。若人結ふ志
づふ今憐ども。海ガ涙珠とあり。吾死

敢ふ死絶せう。拾〻堀つ珠の数ごろ
ハ。海ワ爲ふ今了び哭て。後日の背証と
らさせ。たのめば殺人不肯。君子人の
書とこそハども。海中ふ賊人あり哭別涙珠
とする力る。言ずまず。雨ごとらぶ。その実情より
出ずる涙。ちあこれば。一滴の涙もこぼ。
かの蜑殿の源嫁と呼ぶ。北斗と成て法ごと
きこそ。小的仏りそあ水ことあるべず

もつれぐも大悪あるゑ義ゑの。月光とあるかつぎよ
ミバ。れ。ゑ。の通風あり。嘴且酒殻と掘く。
瀬田の橋小ゆ。ゑ。海上と眺ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。実ゑ。水の。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
とつ。ゑ。ば。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
田の稲のゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
跳ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
や。煙波洞浪ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

あゑ。ゑ。の。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
然ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

数〻とり。皆さらばなり。この梅て。酒中ふ花入。
り糸もたつずあり。れば。煮ぶつ。ど彼方
顆の縁と搾へ。矢橋とたぐりぶ。さぶても
百枝の緑と鶯よのそむとつも不解。この安児
母子が世業ハ何でもらと。孫とへさと引
へ。鄙のうとと私のぞけバ。高要ハんよ
糖

○夜行翁

歳年幸昔得従容。力盡筋瘦白頭翁。愛
惜炷油坐黒夜家中後ふ置燈籠と。明人の口
実くも宮ふるふつり。詩のうとと云ふ。ちりく
一個の老爺あり。老婆ハ川へ浣布ものもと巨
富の良賈ふて生涯身の脂とぎづて火燈
へつぎ。汎よ灯とりて燈をくうとくの話
倹ふて。吾一代よ撰得て。今ハ大家の元と
とあれども。万ふ公宮ふ世とつ世ハらも

なく。日ごろ久まで世ごあきづゆ。這く人ハ左右火
のえが所ん燈中の灰殼も注ごうて灰つきこゆ門
前ゑ火ごやいりのみど必くおくまいぞ。天水掃ず
氷ごう。毎朝水と汲入うと小厮と睡ませハせバ。
主管も清早ごう。堂下の效と掃せ水溜の水
とうれバ。夜茶の宮で氷ごうつゆ。その前まうり
法方の湖みゑ紡絆ごう。左右ちてやり歩碎。
のうゑ氷と汲出て水とつゑ入させるところく

ゑ茶端くゑ廊茶と戸まゆう。氷の碎てあると
ごうけ。員怪眼と睡。愚將の下ゑ稚卒ゑし
とらゑと誠みごうゆ。主管隨弱うて人と仕
の道とゑず。右まで那廂這廂ゑ火ごやい物
と茶乱ゑておくゆ。眠ゑ懷まバごう愛
更以不解。言老家那首ゑ火ごやいりのゆ
ゆうもうゑず夫ゑれが眼ゑ遠ぬゑと今歩
碎ゑ氷ゑ物とさせバ主管も吹笑。老家

遠ハ夜前こゝろさ氷とうら摩さのでごゝろまし。
甚麿ゝれが火ぐ安いものでごゝりまもとゝくば。
老爺假実的摸様で。バテ看一看ハ。燧石とまち
ゞくハさ

○ 西婦換魂

むゝ泉州ゝ。安部山安麿呂といふものゝ。家小
ハ真葛ゝて。標致意能ゝくさゞひゝく一個
の児女とゝゝゝ。名と蘭菊とゝゞけまし婦ゞ

掌中の孫と寵もゝ混ゝゝ。ゞゝゝ小児女孔
菊二才の春。田氏のまゝ葛血労の症と炊ひ。
医業のゝゝゝゝ〳〵〳〵。〳〵抱ゝゝ。君臣佐使
の匙も折ゝ。旋旗枝上の茉も救ゝゝゝゝゝ小
刑三千年の寿もゞゝゝて。終ゝゝゝ
くなゝゝれバ安麿ゞ嘆ゝ文ゝゝゝゝゝ。寿祝
月見園会ゝゝゝて。光信の小馬乃まと
ゝゝゞ。祝ゝ中信もたゝれバ。今年の金襴

氷人して梯となりて後妻となりける。這個梯も毛
嬙西施が顔色ありて蓮臉春を生じ。秋波娥を
送るそのうつくしさ花月の妖とも謂べし。され
ども其こころざし直からず。償ふいろを以て安
麿に媚とりめ。その看守とうらびてはらん
家とす擬し。唯つらくのミ歎待しければ。
安麿も後にはこれを知りて意に慊りたれ
ど得梯がいろに和まされ。家を忘びてくらしける

されども児女が朝暮折檻されて泣叫とさる了
志のびと。今且も里中野山に逍遥て。その紫
ふまをとえらしけるが。天さびかき秋の日の驟
小猛雨ふり来り。避雨せん家もあらねば。深蔭
の林に分け入く。此避雨縁志のびろふ大地俄に
崩て。たちまち穴の中へ陥るが。その深さ志ろ
を。遂に人の跡の上に陰止りければ。下に人ありて賊
となりければ。不と来ても走来り。右以て安麿をとるふ手

小傳りる。安磨呂より〳〵個人ところ小三年已に
小病死ありし。亡僕世可平あり。世可平安磨と
倩うそ。大きに孩さけやくも細傳と釋。内小
走つ入く右と告りれしば。安磨呂が父母うつ生
まづよとりて嘆る。父のうぐと神ふうけ。生
死道と吳小されば。ひぐ児安磨ふうろしてより
十七年。今相見ての奇事さと遂小室小
伴入まバ。さしぢ〳〵なり。先妻真菖。

麁の下小汁刺備てうしバ。安广呂儀小
走りうて。言とうけんと走りし小菖ちあく
も解脱ーそ。その座と立さりる丸で。安广呂更
丸不解。母これとて安广呂小ひ丸ハ。汝ふくび
妻とも丸ん。凡男子後妻と要しバ。前妻
結髮の情あさぶ更小。死てあくびれるう
可ひがーそ。母先の内小入くさ菖小耳語バ
さ菖旬ぢめて夫の顔とそてまづ涙とで流

る。備亡後のすもんとなりて。安ノ
名敎く說話つ。後妻の榊邪見うして。兒女
礼菊。慣小杉。慰せうめくるべ。詩りれバ。
さ苦吉ヶ丸。のべ。ど敎うと失く。哭ふ〳〵む父と
の分野とうて。洲婦の色よりひ。警る敏と
合ゞ。夢小鴨島と拓てその巣と被るこし月
中移〳〵。磯子ゆり。今ゝ伝と悔ふげん毋滅と
ふうへて。勿言ゞ。渠が去春。潰む小足〳〵ど。只

憐べき八孫女より。方一のゆゑバ。吾倅が血脉勿
孫へて。長く宗祧とる。父有理ゆ。
うゆづき。まゝ〳〵バ孫女が成人するまで。新婦榊
とこのゝゝくまれき。教訓せんと。前妻の苟
と近く拓き。兒の為ゆ。家の為ゆ。今ゝ
安ヶ呂と同律ゝびゝ家ふたちゝ。孫女が成
長ゝゝゞ〳〵ゝ。毋ゝもふいひれバ。眞
菊八辞ゝるふゝゝゞゆ。湯姑の令に已ゝ

とゞめ。安宅口とうちつれ出るとゐ人ハ。勿れ
遊雨せし林のゆふ暮ハ。安麿ハ忙然
さてゞめて爰のえんさるごとく。弟妻三人者ども
ほとゝぎすてつゞ家の門へ立ハ。曽ハ
先ざつと内へ通るとゝ。顔くゝ。ぶつとして
湖陳の西ゞ。そのあくさとゝ。ぶ。歩ア
呂もつゞひくゝ内よりもこゝ。見女乱菊。父のえ
アゝとゝるゝ。且欲び且恐ゝ。勝遽ゝ

知ゞ。ゆ見ハ脇れゝ落花のごとく。ぶ
髮ハ乱ゝ。血ゝ流ゝ。ハ日大人の着寺る
史。後毋ゝ抱られ。這様ゝ者小ゝ
さと。つ髮のさへも白きして。既ゝ危くゝ。
安麿周章狼抱も。左や右やと猿狽まる。
奥ハゝ後妻柳徐ゝ歩ゝ。ぶゝ
形くゝと右手でむゞ打撫さゝて金ゝ
のゝゝゝやとゝらんぎゝと勝ゝ抱ゝ。奴家

八孫兒の実の母。二ツの素ましき史。白もまへ
ゝゝ八孫まい可ゝの四人や可恨の涙やと。雨ぐ
し涙ものときりバ。亦妻ま葛小方井と。安ア
呂ゝゝんとつくふ。容貌八後妻柳ふぐ
ゝねども。言語ゝ然八物ひもあき亦妻眞
葛ゝ八ゝ。ゝてゝ亡父母の情ふく前妻
言葛ゝ魂の八ゝゝとけゞ者情ゝ。乱菊も
実の母と称ぶく。後ゝ暴ひゝゝゝ。秋子

十七

の歌。亦ゝぎりゝ。嘉八ゝゝ家の形状も婦眉
安積筵笥。屏風ふらけゝ袖ゝで。あゝしふゝる
ゝの歌。ゝ形小注ゝても味ゝ実ゝ。実ゝ妻
子ゝ衣服のゝゝ。世の諺もゝゝゝ。惣家ゝ
世と辞ゝゝ言ゝの亦八ゝゝ。井筒ゝ八
ゝ。その香嗅気小意ゝ。後男の縁
雨やと。かゝゝ哭ゝ八ゝ。安ア呂ゝゝ
後妻と。ゝゝ亦と悔ゝる。弟流夫婦の

十八

中陸〳〵。已ふ十二年の月日と送りくれば。四
ぢらんぎく。とるや十六のとしとむく。幸ひ配偶の
縁のうて。信田の某しるくる。貞淑家の婦ゆく
ありて。女子年のこ字ひろる。ちろふ文字は菖安麿呉
いひるハ。男儀河義ちうまふてどや多
べしと告ゆ。国房の親是まで。ありしに置姑
の命ふうて。四人安と共に。しも里ふつり
て十二年。入りハ四人のつまとあきバ世の

金をふり。呉れるハ。四人幼年が後末
とりとぶ。百年の後ハ父母小孝行とそ
ゆくとらひ〻ま。安子ハ也
憶ゆるまよ男ふ。俱小孝ふ雪とう
ぶ。惜老国定と。ぶとて。今中楽ふ
一そ。別んそ。情ふ人ハ中。きくゆ痛
哭〳〵。ぶ〳〵ふ新とあげ。ま貧とし。ばくや
ことまれて。年ふ。這ハ。ふと。せんと。働田人。

茅よ水と與へせバ。ずりしに穢出し。業毒に
死ふ之りめ入バ。ぞより君よ来りと。何義の命ふ
よつて。母へつゝしとりなべ、於ゝべきもあれ後
まあ桃が諸音あれバ。安部名太まふ色と失ひ。
路れゟしてまりける。桃まの侍へ坐起て男願
ひかなすこのたゞ妾胃姓の侍ふありて。教訓と
受ることニ三年下。せし帰庄と云ひ狂見種
意の罪今さらじめて云ひあるなり。兜女乱宗

今ハ人の婦人ありて唯守成人あつてんわさるす
も恥しけれど。君幸ひふ舊悪と念あハさバ。一
面の分てさびしめて。身と悔て郷泥きバ。安
麻呂も桃が言んふ立ちりしふ安堵して。
乱菊よ右と告けれバ。らん菊よるのもとより
いへど立つ来なり。此年月の養育の報母氏の
勤労ハ。アつもり後母公の肢體あれしバ東西
元方と。けけ隔んやうもなと。早走早岸へ

よ掛もうれしく。昔時の元ふ門くゝ。まと絡
然んとあるれを図思ものの。客ア
ばかる形状とろふつけても。絶まで邪
見の掛あり志ゝふ且吾。も良
婦とあり一とと。まつゝ亡父母の高恵と
ひ。ま二ア。弟妻志萬が婦種のふ
と有れば。ゆとぞ八度相そ。ぱゝ
次の方も術ゝ。ゆ文歩ふゝく。

りゝ。ゆ一遊ふ木のゆふゞゆゆば。
再見るも。ふゝ。熊小叢林ふゝけ
入く。那廂這廂ゝと吟ぶ。樹の古木寂莫
ゝて。草ゝゝる蔓の葉裏。山風ふ飜ゝ
その傍ふ大きなる穴のあるを。てふゝし
ぎゝと走アとれば。穴の四方ふ泛連とゝく。
新き撥と立るハ。不解と立ゝて傳ぐ
乃まバ。神その業と入く。霊櫛の穴ハ

小ぶん無用。

○俳諧

ミーが故人。仙水先生。常好んで和漢の書を讀。又俳諧の連句を嗜む。辛酉粉樂の後。今年一個の後生素さして。俳諧の門人となんことを願ふ。その名號をば白癡と云。生涯月ふして癡鈍なり。

トルトヤガテイヘノタンセヨ又ルロリノケカニカワ

字。こゝに發句とは。發句八字切字四ツ。十四字と短句とは。附合小百員五十韻哥俵ホの式あり。

式小表裏。月花。恋。婦の名所あり。

と天相といひ。雨露の形とあり。

いよ。又風と風体。人と人倫。家と居所。

山と山部。水とみる。ものと衣体。夜

と夜ふ。鳥獸と生類とふたぐひ。こゝみ
忘去きゝしあり。女娘。嫁。白ゞふれ
ども。多くハ戀しこゝろなべ。佐子の句ふ
さし合わて。頃句とらひ生ものと
と。一生とるらひ。按ゞるのおとと再業と
ゝて。くゝゝ教諭しゝしバ。白癩
通ゝりゝ。これと品撰ゝ。中ゝ紀佐ゝ
ワゞ家へ帰りけゝ。さて夜里中小結婚

あゝて。白癩祝小沙。ゞ養借とゝ小
婢立生ゝ孰ゝゝ宮。白癩大
撰大様ゝ。拙子ハ里中の山獣ゝ居ゝ人
倫でゞゝ今日ハ佐あゝゝさゞ天
おゝゝゝゝ。今郎の居ゝ高とゝ行
ゝゝれて。夜ゝゝ佐の中で。水道
とゝゞゝゝゝゝ。千秋萬歳ゝ
ゝゝ。婢解不解撰様とて。雅言

が釋ゑまん。早速ぎ流て
下さりませとゝいへバ。白癩短句八十四字
をまこゞ。婦人の耳よりこ今ごゞ
を。再案ゝさとも姑めらゞごゞる
更。いづれ一生ゝゝさゝゝゝゝゝゝゝ
れバ。蟬丞迷惑して。一生ゝゝ容の
使者ゝごゞりまの代ゝ四人ハ白癩ゝも
敢ど。這女児ハ父ゝ
なることとゝふ

ものゝか。一生ゝゝ生ゝゝとゝふ
ことでゞれしゝバ。蟬。そんゝ
奴家もゝりつゞぬゞんゝまゝ
せう

○園中森鬼法

○美人怪力

右の両話稿成とゝぐも。歳既に黄鐘
に迫り。前小書肆あり。後小剞劂
氏あり。倉卒として。校正と加るゝ
不逮。斯小遺漏〳〵。姑〳〵筆と半
に絶ぬ。尚八四方雲顧の諸君子。後
の編撰と俟のみ。

曲亭主人書

書林　江戸通油町　蔦屋重三郎